PRP(多血小板血漿)治療について

('26.4.1)

1. PRP(多血小板血漿)とは？

ご自分の血液(自己血)から遠心分離して得られる血漿の中から、血小板が多く含まれている部分(多血小板血漿；PRP)を抽出し関節内に注入する治療法です。血小板には止血作用があることが知られていますが、その他に種々の成長因子やサイトカイン*が豊富に含まれており、除痛･組織修復および抗炎症効果があると言われています。

*ｻｲﾄｶｲﾝ：免疫細胞から放出されるﾀﾝﾊﾟｸ質で、細胞増殖､抗炎症作用､創傷治癒に関与している。

2. どのような疾患に適応があるのですか？

肩腱板損傷、上腕骨外側上顆炎(テニス肘)、膝蓋靭帯炎(ジャンパー膝)、アキレス腱周囲炎、アキレス腱付着部障害、足底腱膜炎などの腱付着部障害に加え、肉離れなどの筋損傷、さらに半月(板)損傷･変形性膝関節症といった関節疾患に対して行われます。当科では**変形性膝関節症**を中心に PRP 治療を行っており、腱･腱付着部障害に対しては**体外衝撃波治療**を行っています。

3. 実際に治療はどのようにするのですか？

治療は外来で行います。まず、本治療についての説明を行い、治療を希望される場合は同意書に署名をいただきます。通常の方法で腕から 50mL ほど採血し、採取した血液は許認可を受けた専門の業者に送られ、抽出された PRP をフリーズドライ加工(PFC)します。その後、採血した日から 20 日後に PFC 製剤(3mL､2 バイアル)が納品されます。

採血日に次回受診日(21 日以降)を予約し、予約日に受診していただき、問診･診察したのちに関節内に PFC を注射します。なお、PFC は半年間保存可能なので、1 バイアル(3mL)を 2 回に分けて注射することもできます。

4. 治療後は安静にしていなければいけないのですか？

治療後は普通に歩いてあるいは運転して帰宅することができます。また、安静を保つ必要もなく日常生活は通常どおりにできます。なお、当日は感染予防のために入浴は避けシャワー浴になります。

ときに、注射後に一過性に痛くなることがありますが、アイシングをすれば次第に軽快します。

5. 効果と合併症は

効果は年齢や関節症の重症度によって異なります。また、ご自身の血液から採取し加工･製造するので、通常の薬剤と異なり PFC 製剤の中身(PRP の質･量)が一定ではなく効果に個人差があります。さらに、PRP には軟骨組織を増殖･産生させる効果はありますが、PRP 自体が軟骨になるわけではないので、既に軟骨が広範に摩耗･消失していたり高度の変形があるような症例では効果は限定的です。

従って、PRP 治療の良い適応は、鎮痛剤の内服やヒアルロン酸注射などを受けたが効果がなく、医療機関で手術の適応があると言われたが手術には抵抗があるといった方で、軟骨が比較的残存し変形が軽度な場合です。そこで治療に当たっては、レントゲンや MRI などで詳細に検査を行い適応を厳密に決めるようにしています。また、このような難治性の関節症では顕著な筋力および柔軟性の低下を伴っていることが多く、PRP 治療に加え理学療法士の指導によるリハビリが必要です。

上記のような理由で、治療の効果は変形性関節症の重症度が軽度・中等度では 70%弱、重度の場合には 55%前後に低下し、全体としては 58~83%とすべての患者さんに効果があるわけではないことをご理解ください。どのような患者さんに効果があり、あるいは効果がみられないのはどのような場合か、現在、学会・研究会で検討されており、今後さらに明らかになってくると思います。

合併症はヒアルロン酸など一般的な関節内注射と同様です。治療直後から数日間、一過性に腫れや痛みが増悪することがありますがアイシングで軽快します。一方、最も問題となるのは化膿性関節炎で発生頻度は 0.04%程度ですが、膿の貯留が認められれば排膿･洗浄などの処置が必要になります。

6. 保険は適応されるのですか？

保険は適用されず自由診療となります。詳細についてはお問い合わせ下さい。

なお、採血後の血液検査で何らかの感染症が疑われる場合には、それ以降の加工･製造はできず治療は中止となります。

7. それでは、どうすれば治療を受けられるの？

整形外科･スポーツ医学外来にお問い合わせ下さい（☏049-238-8290）。その後、予約した日に外来で診察を受け、PRP 治療の適応があるか否か検討し、治療は改めて予約をとり開始になります。（'26.4.1）